

不二速報



発行日 2010年7月8日

第3号 2010年度第112回定期大会報告号

2010年度定期大会報告

去る6月24日(木)15:30より、2010年度112回組合定期大会を行いました。以下にその概要を報告させていただきます。

➤ 委員長挨拶

芳賀委員長より挨拶がなされた。

➤ 前年度活動報告(第1号・第2号議案)

田中前年度書記長より、議案書に即し前年度活動報告および会計報告がなされた後、大和田監査委員より監査実施の報告がなされた。

【工学部】自分は交渉に3回参加した。技術職員と地域調整手当の問題に注目している。地域調整手当のほうでは動きがあったが、静岡5・浜松4になると期待していたのに5・3に止まり、財源を理由にするのみ。この結果には不満である。

【前書記長】事務折衝では期待を持たせられたが結果的には押し切られた。アンケートと署名活動の回収量が少なかったことも要因ではないかと反省している。新執行部との団体交渉で工学部が提出した他大学のデータは大変有効であると思った。いずれにせよ給与引下げ分のカネはあるので、今後も取り組む必要がある。

【工学部】第1期の特別積立金がどのように使い切られたのか、組合で知っている情報があたら教えてほしい。

【前書記長】大学の決算について、旧執行部は把握していない。これからの交渉で明らかにしていくことになるかと思う。

【工学部】地域調整手当問題では常に「カネが無い」と言われるが、積立金の大部分は人件費であった。本当にカネが無いのか、無駄遣いは無いのか。

【前書記長】決算データをみれば具体的な要求が可能であると思う。

第1号・第2号議案承認の採決が為され、賛成30(総数30)で承認された。

静岡大学教職員組合
<http://www.jade.dti.ne.jp/~suu/>

静岡：
〒422-8529
静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX:
054(236)0173 (直)
2790 (内線)

E-mail
suu@jade.dti.ne.jp

浜松：
〒432-8561
浜松市中区城北三丁目 5-1

TEL/FAX:
053(475)9035 (直)
3910 (内線)

E-mail
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

目次：	
定期大会報告	1～3
議案書の修正・追加	4
組合からのお知らせ	4



➤ 第3号議案説明

岡端書記長より、議案書に即し、第3号議案の説明および修正・追加議案の提案と、第4号議案(予算案)の説明がなされた。

【理学部】組合員拡大の緊急性(12頁)について。具体的な工夫が必要と思われる。加入を呼びかけても「忙しい」・「メリットを感じない」と言われるので、メリットを作っていく・伝える必要がある。例えば「ボトムアップの声を吸収・発信する役割」など。

【工学部】組合員数の推移(4頁)について。組織率はどうなっているのか。過半数組合のメリットを訴求し、その達成を強く打ち出すべきである。事務負担増大による悪影響(11頁)とは具体的にどのようなことを指しているのか。

【委員長】組織率は、大学全体で25%であるが、人文70%、教育80%の一方で工・情報が低いという状況。但し、昔は組合員数が多かったが、母集団も大きかったので、組織率は50%を超えていなかった。もともと、最近減少率が激しいのは確かである。少なくとも2005年レベルまでの回復を目指す。事務負担増大による悪影響に関しては、事務員の減少が非常勤・派遣で補充されるなかで、仕事がスムーズに回らない。とりわけ学務系のストレスは大きく、学生への対応が厳しいものになってしまう。また、教員に関しても、一人で指導する学生数や授業負担は増大している。

【教育学部】助教の待遇改善(14頁)に関連するが、人件費削減の観点から「助教で採用しろ」と言いながら、助教に講義3本を負担させようなどとする。講義を3本負担できるような人材は、それなりの能力をもち、それなりの年齢に達しており、助教というポストに見合うものではない。「助教採用者に多大な授業負担を許さない」ということは組合の課題ではないのか。

【委員長】答えにくい問題であるが、事務折衝において助教職についても議論した。従来の「助手」は単独で学生指導・授業担当が出来なかったが、助教にはそれが出来る。しかし、「助教」という新しい職種に対応する給与表がなく、「助手」のままの給与表を適用しており、問題である。個人的には、平成21年度以降の教員人件費部局管理が問題の核心にあると考えている。つまり、1%削減問題が学部で丸投げされたことにより、赤字に陥りやすい学部で助教採用の歪みが生じるのである。



【工学部】非常勤職員の労働条件改善(13頁①)について。法人化前からのパート職員は、法人化時に賃金を切り下げられて以来、そのまま据え置かれているという。改善してほしい。技術職員の待遇改善(14頁⑥)について。(ア)技術職員は退職時に5級であるのに対し、事務職員は6級である。技術職員の昇格設計を事務職員と平等にしてほしい。(イ)臼井理事と技術職員の懇談会を設けるなど、現場の声を直接聞く機会を申し入れてほしい。(ウ)法人化後に採用された技術職員の賃金が不当に低い。大卒資格で公募を行いながら中卒レベルからの給与計算では詐欺に等しい。(エ)「教室系技術職員」という呼称は止めてもらいたい。技術職員の殆どが公務員試験中級採用ないし大卒者である。(オ)平成24年度から組織見直しを行うとのことでWGが動いている。このことについて組合は注視すべきである。(カ)指認証システムについて、中途半端なシステムで無駄金を使うのは問題である。(キ)教員自己評価について、毎年自己評価を入力させられるのは時間の無駄である。授業担当や論文数は、個々の教員にシステムへの入力を行わせなくても把握可能ではないのか。

【工学部】(ア)前の質問者に対して。「教室系技術職員」という呼称については、東海北陸地域の募集要項に残っているものであるから、廃止の妥当性は低い。(イ)本年度の全大教中部ブロック技術職員交流会は、静大が当番校となっているので、予算面で援助をお願いしたい。

【工学部】准教授または講師への任用を前提としたテニュアトラック5年が準備されつつある。そうすると、任期付き助教のなかに、5年で1,000万円、部屋あり、授業免除という恵まれた条件の者とそうでない者の二つの制度が並存することとなる。



【大学教育センター】雇い止め問題、運営責任について声があった。(ア) 非常勤という雇用形態自体、見直す選択肢もあるのではないかと、(イ) 期待権の発生という回答をどのように突破できるのか、論理の質を高めて役員を超えねばならない、(ウ) 政治の動向次第で枠組みが決まってくるので、他の国立大の組合とともに声を上げる必要がある。

【前書記長】非常勤職員については、職場を変えたり、3ヶ月のクーリングオフ期間を置いたりすることで再雇用は可能であること、単純に3年+更新の場合、「応募」することは可能であることを確認した。京都大学の場合は非常勤職員の扱いを各部局に委ねており、その代わり、問題が発生した場合の責任も部局が負うという形式である。時給の低さについては、経営側は「県職員の時給」を比較対象に持ち出すので、これをどう論破するかが問題である。

【教育】非常勤職員の再雇用について、部局と職務内容が変われば良いということか。

【前書記長】学科が変われば良いということのようである。細かいところまでは不明。

【工学部】先ほど「技術職員は5級までしか上がれない」との発言があったが、自分は上に人がいるため、退職まで2年の現在、4級である。業績に関する締め付けは厳しくなる一方で、待遇は全く良くなならない。

【委員長】技術職員と臼井理事との懇談会は申し入れる。新執行部の下で組織改編が進むことを期待している。「5級」という水準でも現実に到達出来ていない人がいるので、「5級の枠を広げること」を優先課題としたい。法人化時点で時給切り下げが行われたとのことだが、切り下げ論はあったものの結果的には切り下げられなかったと記憶している。確認する。

任期制について、大学に一貫した方針がなく、部局ごとにだいぶ事情が異なる。任期というものの自体にどう取り組むか、問うていく。指認証については、学長交渉の後、臼井理事名で「試行」との文書が出たが、本日の新聞にも記事が出ているので追及していきたい。



【工学部】定員も存在しないのに「専任」の身分とされている矛盾した状況がある。センターが次々に新設されるが、内容も不明確で建物すらない。懇談会はぜひやってもらいたい。待遇は悪くなる一方である。パートの仲間は正規職員への登用試験を受けたが一人も合格しなかった。試験会場も静岡のみ、合格者も静岡のみでは不信感をもってしまう。

【工学部】学内専用サイトの職員電話番号簿で、役職名と学位の情報が全て削除された。「やられた」という思いである。

岡端書記長による総括の後、採決が行われた。

第3号議案 賛成 32 (総数 32) により承認。

第4号議案 賛成 32 (総数 32) により承認

第5号議案 (人事委員) 賛成 31, 保留 1 (総数 32) により承認。



大会終了後、短時間ですが、懇親会を行いました。

【2010年度定期大会議案書の修正および追加】 ※ お手元の議案書の訂正をお願いします。

・議案書14ページ、16ページ組織法制部の中の同文

⑤ 東西両キャンパス地域調整手当支給率の改善

同じ大学でありながら、キャンパスによって地域調整手当支給率が異なる不公平を是正し、当面、静岡、浜松ともに5%、将来的には両地区とも6%静岡5%、浜松4%（現状は3%）を要求します。もちろん、最終的な目標は両キャンパスとも同率を目指しています。

・議案書15ページ

⑪ 長時間労働の禁止およびサービス残業の全廃

残業は季節的変動があるものの未だかなり存続しており、休日出勤は特に入試関係業務で増加する傾向にある。組合は長時間残業や度重なる休日出勤をなくすための取り組みをするとともに、手当が支払われないようなサービス残業を一切認めない。

⑫ 介護休業規程の改善 一部分休業取得の規定の追加

現行の本学介護休業規程を見直し、京都大学の同規程に盛り込まれているような部分休業（半日休業）でも「3年間通算180日」の規定を追加するよう当局と交渉する。

・議案書20ページ

一般会計予算（案）【支出】B活動費 調査広報情宣部



活動内容も年もまったくちがう講師おふたりの経験をとおして「平和とは何か」を考えます。

- 講師 : 佐治 麻希氏 伊豆市八木沢「妙蔵寺」の僧侶
小沢 隆一氏 東京慈恵会医科大学教授 専門は憲法・政治学
 - ◆ 第一部 講演およびクロストーク（参加無料）
会場 : 大学会館ホール 17:30~20:00
 - ◆ 第二部 交流会（参加費500円・食べ物や飲み物をご用意します）
会場 : 生協第二食堂 20:00~22:00（予定）
- 主催 青空の下でPeace!!実行委員会



教職員共済

この機会にぜひ、教職員共済生協の各共済をチェックしてみてください!!

今年も
やります!

共済 わくわく キャンペーン



～ 教職員共済生協の資料請求をされると、抽選で500名の方に賞品をお送りします。～

《共済わくわくキャンペーン応募要領》 詳しくはチラシをご覧くださいまたは大学事業所までお問い合わせください。

- 応募締切 : 2010年8月31日（火）必着
- 対象となる方 : 学校または教育機関に勤務されている方で、キャンペーン期間中にキャンペーンチラシまたは大学事業所にお電話で資料請求された方（この案内をご覧になった旨をお伝えください）
- 賞品 : 以下の賞品の中からお選びください。抽選で500名（A・B・C・Dの合計）の方に賞品をお送りします。
A. 国産小麦讃岐手延べ半生うどん B. 熊本焼酎 待宵 C. 静岡県産クラウン印マスクメロン
D. 緊急避難セット（非常用持ち出しバック、手巻き式携帯電話充電器、マルチナイフ、ホイッスル等）

《資料請求・お問い合わせ先》 教職員共済生活協同組合

大学事業所 tel: 0120-628-095（平日9:00~17:30）
〒101-005 東京都千代田区神田神保町2-14 朝日神保町プラザ502